

東京 IPO 特別コラム

2016年1月18日 Vol.12

成長期待高まる新サービス企業に注目

期待に反して新年の株式相場は調整色を強めていますが、そうした局面だからこそ投資のチャンスがあるとポジティブに考えていきたいと思えます。先週は昨年4月に上場を果たした2社をプレゼン出席ないし企業訪問させて頂きました。いずれもこれまで一般的には余り認知されてこなかった内需型の新サービス業態の企業です。サービス産業は雇用の受け皿でもあり、その成長は1億総活躍時代という国の施策にもマッチしています。

1社は姫路に本社を置く三機サービス(6044・JQ)。同社はパナソニックの大型空調機器メンテナンスサービスを収益源として安定した成長を辿って参りましたが、今後の成長の柱となる飲食店、小売店向けの設備機器トータルメンテナンスの売上が伸びており、今5月期の売上高は全体が65億円に対して40億円を突破すると見込まれます。同事業は先行投資期を終えて今後の収益貢献が期待されています。飲食・小売業は自社スタッフで店舗の設備機器の緊急メンテナンスを行うことはできないのでそれを専門業者に任せることとなります。これまでは店舗ごとの対応でしたが、本部一括での対応をすることで効率性が高まるため、ポテンシャルは大きいと見られます。但し、強い営業力と設備投資が必要で、創業時からしばらくは赤字を余儀なくされます。同社の場合は既にコールセンターの設置など先行投資を終え、損益分岐点が大きく低下。今後の大きな利益成長が期待できます。見た目は地味だと見られがちなサービス業態ながら、中長期的な成長性は高いと評価されます。

上場後調整気味だった同社の株価は全体相場が調整する中で先週大きく上昇しました。3分割実施で流動性が高まったことに加え、100株以上の株主への株主優待制度の実施を発表したことが契機ですが、成長性の割にPERが13倍と比較的低いため、投資家の関心が高まったと見られます。

企業訪問したのは街コンで話題を呼んだリンクバル(6046・マザーズ)です。訪問するまでは単なる街コンなどのイベント企画会社かと思いましたが、実際にはアマゾンと同様にネットビジネスを積極展開している企業だとわかりました。約50万人のユーザー会員を抱えるECサイトの運営サービスを行う企業で自社の企画運営よりも他社の企画運営イベントの方が圧倒的に多い大手企業との協業型のビジネスである点が理解できました。つまり1回について約200名が参加する街コンイベントや街バルイベントをインターネット上で告知し、集客手数料として街コンで約5000円、街バルで約3000円の徴収まで行うビジネスモデルとなっています。今9月期は売上こそ前期比30%増と引き続き大きく伸びる見込みですが、利益は横ばいを見込んでいます。サイトの充実を強化するほか、アプリ作成のためにWEB系のエンジニアの採用を積極化さ

東京 IPO 特別コラム

せており、この分の人的な先行投資を中心に経費が増加するためですが、これは中長期的な同社の利益を大きく増加させることにつながると見られポジティブに評価して良いかと思われます。街コンの開催はアベノミクスの政策課題にある少子化対策の後押しもあり国策にもかなった事業です。それは上場時も今も変わりません。新サービス業の有力企業として株価が低迷している今だからこそ同社に注目するべきではないかと思ひます。同社を率いる吉弘社長（45歳）はオックスフォード大学でMBAを取得した起業家であり、とても信頼に足る経営者です。今後の10年を託してみたくなる経営者の一人ではないでしょうか。

（東京 IPO コラムニスト 松尾範久）